

学校運営を 支える仕事

Vol.1 「事務補」「用務員」

市内小中学校では、子どもたちが安心安全に学校生活を過ごせるよう、「事務補」、「用務員」、「学習指導員」、「スクールサポートスタッフ」、「学習支援員」が活躍しています。学校運営を支える5つの業務について、順次紹介していきます。

初回は「事務補」と「用務員」を紹介します！

「事務補」

教職員がより教育活動に専念して取り組むことができるように、教職員の業務量軽減を目的に配置しています。

主な業務内容は、配布物の印刷業務や、学校内の清掃・整理整頓などを行います。特に印刷業務は、学級人数ごとにプリントを仕分けるなど、教職員の作業時間を軽減しています。

また、新型コロナウイルス感染症対策のため、アルコール消毒作業にも従事しています。



「用務員」

学校敷地内の維持管理を目的に配置しています。

主な業務内容は、草刈り作業や、学校設備の点検を行います。また、冬は除雪作業も重要な業務になります。子どもたちが安心して学校に通うことができるよう環境整備を行っています。

「事務補」同様に、新型コロナウイルス感染症対策のために、アルコール消毒作業にも従事しています。

【お問合せ先】 学校教育課総務係 電話 0126-35-5121



『レジリエンスな子ども』

教育長室から

教育長 三角 光二

生後4ヶ月ほどの赤ちゃんが、懸命に寝返りを打とうとしています。体を大きくのけぞらせて体勢を変えようとはしますが、なかなかうまくできません。あとほんの少し、もうひと踏ん張りというところで、元に戻ってしまいます。何度も繰り返す様子に息を詰めるようにして見つめる親の表情や姿から、我が子の成長を信じて待つ愛情を感じます。

子どもは、誕生してから日々成長しています。自力で何かを成し遂げたときの子どもの満ち足りた表情が、周りの大人を幸せな気分してくれます。子どもは達成感や満足感を味わうことで自己肯定感を抱き、それが自信となります。子どもの頑張りを認めつつ、ときには親がちょっとひと押しし、そっと支える場面もあるでしょう。子どもの幸せな成長を見守る親の愛情が思いやりのある子どもを育みます。子どもが成長していく過程には、うまくいくことばかりではありません。思い通りに行かないときや失敗してつまづいてしまうこともあります。また、楽

しいことや嬉しいことばかりでなく、悲しいこと泣きたくることや怒りたくることもあるでしょう。

そんなときに、しなやかに対応できる心の強さを持っている子が、『レジリエンスな子ども』と呼ばれます。レジリエンスとは柔軟性や弾力性があること、つまり傷つきにくく、対応力や回復力のある子どもを指します。しなやかな心の強さとは、あきらめることなく何度でもチャレンジする、へこたれることなく別の選択肢を見つける、あるいは我慢するなど、自ら乗り越えようとする力を発揮できる子どもです。子どもは子ども社会の中で、対人関係を学び、社会性を身につけます。自己主張しつつ他者と折り合い、我慢や思いやりを身につけ、失敗や間違ったときに自分の非を認めやり直す、そんな経験を積み重ねながら子どもは育ちます。

子どもが社会人となったときに、困難や難題にぶつかっても、心折れることなく乗り越え、知恵を絞って対処し、自らの自己実現に向けて前向きに取り組む大人として成長してほしいものです。そのためには、仲間づくりや集団での人とのかかわりを私たち大人が上手に支え、人との交流が制限されがちなコロナ禍だからこそ、これまで以上に子どもの人間性を豊かに育てていく必要があると考えます。